

リテラシー史研究会について

研究会のねらいと活動

リテラシー史研究会は、近代において読み、書くという行為がいかに形作られ、変化してきたのか、という関心のもと、関連する研究や調査、史料の保存、整理、公開を行ってゆくことを目的としています。

出版やメディア史、言語教育や読書環境の歴史、地域リテラシーの問題等、リテラシーの歴史に関わる多様な問題を考えてゆく場として考えています。文学、教育学、歴史学等、分野を超えて学生や研究者が参加し、調査、研究スキルを高め、リテラシー史についての研究、調査の促進をはかってゆきます。

早稲田大学和田敦彦研究室が事務局、及び責任者となっておりますが、早稲田大学のみならず他大学の大学院生や卒業生も参加しています。上記の問題に関心のある方であればどなたでも研究会の活動への参加を歓迎いたします。基本的には毎月一回程度の調査、研究会を行います。現在では以下のような活動を行っています。場所や日程については、リテラシー史研究会のホームページに適宜掲載されます。

- ・ 高美書店史料調査
- ・ 財団法人日本力行会蔵書調査
- ・ 早稲田大学図書館所蔵史料調査
- ・ 会誌の編集、発送業務、及び合評会
- ・ 海外日本語蔵書史料調査
- ・ 懇親会

会誌『リテラシー史研究』

近代において読み、書くという行為がどのように形作られ、変化してきたのか、という歴史への関心を共有しつつ、関連した研究、資料紹介等を幅広く行うための雑誌です。読書や書物の文化史、あるいは読者を取りまく出版環境、流通の歴史、言語教育・教材史やメディア史など、リテラシーの形成や変化にかかわる幅広い問題をとらえてゆきます。また、こうしたリテラシーの歴史に関わる史料の保存、整理、紹介についても考えゆける場として考えています。年に一回発行してゆきます。会では、会誌に掲載する原稿を募集しています。どなたでも投稿可能ですが、採否に関しては事務局にお任せください。

なお、『リテラシー史研究』は、各号発行の一年後にオンライン版として公開されますので、執筆者は事前にその旨、ご了承ください。

リテラシー史研究会事務局

東京都新宿区西早稲田一―六―一

早稲田大学教育学部 和田敦彦研究室

メールアドレス a-wada@waseda.jp

オンライン版『リテラシー史研究』

会誌『リテラシー史研究』は、最新号発行時に、その前号までの会誌をデジタル化して公開しています。本第8号発行時には、第1号〜第7号はオンラインでの閲覧が可能となっています。早稲田大学リポジトリから閲覧できますので、ご利用下さい。

早稲田大学リポジトリ

<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/>

リテラシー史研究会ホームページ

リテラシー史研究会のホームページは以下の通りです。研究会への質問や連絡、調査の日程や参加などはホームページを通して可能です。また、メーリングリストや調査用のツールなども関連サイトにありますので、ぜひご参照ください。

リテラシー史研究会ホームページ

<http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/>

リテラシー史研究会データベース

リテラシー史研究会では、会誌『リテラシー史研究』掲載の論に関連するデータベース（総目次、文献目録等）を公開しています。書誌データに関する論が会誌に増えてきたことを受けて、なるべくそれら書誌データの解題や意味づけ、データのサンプルを会誌で発信し、全体のデータは前記のリテラシー史研究会ホームページで公開しています。

*『リテラシー史研究』の発行については二〇一四年度科学研究費補助金「読書環境の歴史調査に基づいた近代文学の研究・教育方法の構築」の支援を受けています。